

科目名	現代ロシア論	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	鈴木 佑也	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-330002	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	この講義では20世紀の始まりから現代までのロシア・ソ連における住まいや住居環境を歴史的経緯に沿って概観し、今日のロシアにおける人々の暮らし、彼らを取り巻く文化および社会状況を学ぶことを目的とする。住まいを中心に、建築物、街並み、交通、都市、さらにはそれらに関連した政策や文化現象を紹介していく。また私たちが何気なく目にするものや触れるものをどのように捉えるかという表象文化論のアプローチ方法も学んでいく。				
学修到達目標	現代のロシアは、他地域と同様に、それまでの歴史が積み重なって形成されたものである。この授業で私たちに身近な「暮らし」という観点からロシア文化の一面を知ることができる。ロシアという地域の特性や我々との共通性を学び、現代ロシアの社会や文化の理解が身につく。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ガイダンス：住まいから何が見えるか。 ロシア・ソ連のから、ロシア人の暮らしぶりを概観し、現在の彼らの一般的な生活スタイルを知る。
第2回	20世紀初頭（ロシア帝政末期）の都心部での暮らし：集合住宅を中心に。
第3回	ロシア革命前後の知識人層の暮らし：キャバレー、カフェ文化。

第4回	1920年代の住宅：共同住居の登場。
第5回	「みなさん、生活はよりよくなったのです！」（1930年代の暮らし）（1）： 集団農場の登場と交通機関（鉄道、地下鉄）の躍進、農村部と都市部の電化の影響
第6回	「みなさん、生活はよりよくなったのです！」（1930年代の暮らし）（2）： ある労働者の1日から見る一般大衆の暮らし。
第7回	第二次世界大戦戦後復興期の生活：外国人が見たソ連の生活
第8回	「アメリカに追いつけ追い越せ」（1950年代後半-1960年代前半の暮らし）：ソ連式団地の登場
第9回	科学技術の進歩とSFの時代（1960年代後半-1970年代前半の暮らし）：拡張する都市
第10回	安定と退屈の時代（1970年代の暮らし）：非公式芸術とアパート文化
第11回	改革か？破壊か？（1980年代の暮らし）：マクドナルドのソ連上陸と「西側」文化の広まり
第12回	「野蛮な」資本主義（1990年代の暮らし）：ソ連崩壊後の混乱と生活での大きな変化
第13回	「強いロシア」の登場（2000年代の暮らし）：都心部でのショッピングモールとマンションの登場

第14回	「いかに住まうべきか？」（2010年代から今日の暮らし）：リノベーション建築と街並みの再解釈
第15回	予備日(授業進度の調整のため) (内容にかかわらず?授業は実施します)
第16回	予備日(授業進度の調整のため) (内容にかかわらず?授業は実施します)

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。予め配布された資料に目を通し、関連用語を各自調べて置くこと。
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点や理解できない点を整理し、調べる。

成績評価	
評価基準・方法	宿題・授業外レポートを60%、授業態度・授業への参加（授業後のリアクションペーパーを含む）を40%として成績判定を行う。
フィードバック方法	授業後のコメントシートで挙げられた疑問点を次の授業冒頭で説明。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	指定の教科書や参考書は特にない。 授業前に講師がレジメをアップデートするので、それを各自でダウンロードし、印刷して授業に臨むこと。
受講上の留意点等	授業ではレジメに基づいたパワーポイントや映像資料を中心に進められる。 授業で疑問に思った点があれば積極的に講師に質問すること。
JABEE	